

日本史研究推進委員会

共同研究「歴史総合をどのように教えるか」経過報告

神奈川県総合産業高校 高橋 俊介

日本史研究推進委員会では、委員の勤務校や県内諸施設において月一回のペースで月例会を開催しました。共同研究テーマに関する教材研究および学習会をはじめ、夏季休業中の日本史サマーセミナーや冬季休業中の巡検などの活動の審議および報告と情報交換などを行いました。ここでは、主に月例会と日本史サマーセミナーの取り組みについて報告させていただきます。また、本会の活動に際して会場を貸してくださいました各校の関係各位に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1 月例会 月／会場（内容）

『新日本史 A』（実教出版）を用い、昨年度に引き続いて新科目「歴史総合」を見据えた教材研究と学習会を中心に活動を行いました。4月／大和東（年間計画およびサマーセミナーの検討）、5月／湘南（活動の検討）、6月／神奈川工業（「御一新」への期待と明治維新）※世界史との合同、7月／横浜翠嵐（公開研究授業）、8月／横浜翠嵐（サマーセミナー準備発表）、9月／神奈川総合産業（成果発表の検討）、10月／上溝南（戦後世界と日本、首都圏と太平洋ベルト地帯）、11月／鎌倉学園（ワシントン体制とアジア）※鎌倉国宝館の見学、12月／湘南（民主主義とアメリカ化）、1月／津久井浜（産業化の進展、石油危機）、3月／県立歴史博物館（中止）で実施することができました。

2 日本史サマーセミナー ※詳細については別項参照

8月19日～21日の3日間、横浜翠嵐高校を会場に「日本近現代史をどのように学ぶか」という共通テーマで行いました。各日とも午前は高校生を対象に①県内高校教員②大学教員が講義をし、午後は教員を対象とした講義を③大学教員が行い、3本の講義を受けての研究協議を行いました。

1日目は、①国民国家と四民平等／桐生海正（足柄高校）、②戦争と文化を考える～子どもたちは「戦争」に熱狂したか？／大串潤児（信州大学教授）、③「台所」と「政治」を繋ぐ女性史学習／齋藤慶子（日本女子大学准教授）。2日目は、①国境の画定と国民国家／高橋俊介（神奈川県総合産業高校）、②「大正デモクラシー」とは、どのようなデモクラシーであったか—「改造の時代」を考える／成田龍一（日本女子大学教授）、③「歴史総合」の実践を創る視点—総力戦の時代をどう描くか—／齋藤一晴（日本福祉大学准教授）。3日目は、①「日本国民」の誕生／生田幸士（大和東高校）、②なぜ徴兵制は導入されたか／大江洋代（明治大学文学部兼任講師）、③近現代日本セクシュアリティ／ジェンダー研究と（歴史）教育—セクシュアルマイノリティを中心に／酒井 晃（明治大学文学部兼任講師）。

会場には、横浜翠嵐高校などの高校生のほか、県内の教員のほか宮城・千葉・東京からも多くの先生方にご参加いただきました。最新の研究成果を踏まえた有意義な授業・研修になりました。

3 その他

冬季巡検（1月6日）は東京駅に集合し、原首相遭難現場、浜口首相遭難現場、日比谷公園、千代田区立日比谷図書文化館、半蔵門、聖徳記念絵画館を経て新宿まで旧甲州街道を中心に回りました。

歴史分科会研究発表会（3月5日）では、新谷桂氏（湘南高校）が「樺太を教える」の発表を予定していましたが、大変残念なことにCOVID-19まん延防止のため中止となりました。

最後に、本委員会は若手からベテラン、再任用まで最新の研究成果や教材研究に関心のある人が集まっています。活動に興味を持たれた方は、気軽に日本史推進委員までお声掛けください。